

留学生、小豆の脱穀に挑戦

北広島で叡啓大の2人

中江さん④の助言を受けて脱穀を体験するエメリさん⑤とティミテさん



叡啓大(広島市中区)に通うマレーシアとコートジボワールの留学生2人が、北広島町西八幡原で農業体験をした。留学生のホームステイ受け入れや多言語習得を支援している東京の一般財団法人が進めている交流事業の一環。

花木園を営む中江務さん(48)の自宅前で6日、いずれも同大2年のマレーシアのエメリ・イージャズ・ラフィさん(19)とコートジボワールのファトマタ・ティミテさん(21)が小豆の脱穀に挑んだ。中江さんたちの

助言を受け、シートの上に置いた小豆のさやを木の棒でたたき、3・8割分の実を取り出した。

2人は作業前、一緒に訪れた法人メンバーの家族連れ約2人と同町芸北地域の

雲月山(911㍎)に登り、紅葉を楽しんだ。エメリさんは「なかなか実が出てこなくて大変だった。ぜひいにして食べてみたい」と喜んでいった。

(与倉康広)